

中学校第1学年「国語科」

期日 (時数)	単元名(教材名)	指導内容(学習内容)	学習指導要領の内容	対応する「ちばのやる気」学習ガイド	備考(留意点等)
4 月 (12)	ふしぎ／声を出そう(3) 感想を伝え合おう 記録をしよう	<ul style="list-style-type: none"> どのようなことを「ふしぎ」と捉えているか考える。読み取ったことを踏まえて、朗読する。 自分の体験に照らし合わせて「ふしぎ」と思うことをグループ内で発表し、話し合う。 他グループの「ふしぎ」を聞き、メモを取る。金子みすゞの『ふしぎ』にならい自分流の「ふしぎ」を書く。 	C(1)ア C(1)オ A(1)オ B(1)ア 伝国(1)イ(イ)		ちばっ子チャレンジ100 高学年 文学的な文章(2)
	音を追いかけて(4)	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読し、あらすじを捉える。 登場人物の心情に着目し、行動の変化の理由について考える。 「自信」という言葉の意味について考える。 未来の心情を表していると思われる箇所を本文の中から探し、その効果について話し合う。 	C(1)ア C(1)ウ 伝国(1)イ(ウ)	聞くこと2-1 聞くこと2-1	
	体験したことを文章にする(5)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体験をもとに、マッピングを行い、随筆の題名を決める。 できごとや考えたことを、付箋やカードなどに書き出し、時間の順序にそって並べる。 自分の感想や考えが伝わるように、四百字程度で随筆を書く。 書いた文章を推敲する。 書いた文章を友達と読み合い、構成について話し合う。 	B(1)ア B(1)イ 伝国(1)イ(イ)	書くこと1-1 書くこと1-1 書くこと1-2 書くこと1-2	
5 月 (10)	お気に入りの一品を紹介する(1)	<ul style="list-style-type: none"> 「お気に入りの一品」を決め、実物や写真などを用意して、話す内容と項目を考え、ペアでスピーチをし合う。 	A(1)ア A(1)イ 伝国(1)イ(イ)	聞くこと2-2 聞くこと2-2	ちばっ子チャレンジ100 中学年「気に入ったひまわりの写真」
	笑顔という魔法(5)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、実験結果のどのような点が「意外」だったのか説明する。 「問い」と「答え」の関係を捉え、文章の要旨を捉える。 接続表現と文末表現に着目してそれぞれの効果について話し合う。 似たような意味の語句の使い分けを確かめ、筆者は「笑顔」がどのような点で「魔法」だと言っているのか、話し合う。 	C(1)ア C(1)イ 伝国(1)イ(ウ)	読むこと(説明的文章)1 読むこと(説明的文章)1 読むこと(説明的文章)1 読むこと(説明的文章)3 読むこと(説明的文章)3	
	フリップを用いて報告する(4)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中から話題を決め、報告するためのフリップを用意する。 話す側、聞く側の役割を確認し、話し手は、相手の反応を見ながら、事実と意見を区別して話す。 前時の学習を振り返り、再度、スピーチを行う。 スピーチの感想や、わかりやすい伝え方について話し合う。 	A(1)ア A(1)ア(1)イ(1)ウ 伝国(1)イ(イ)	聞くこと2-2 聞くこと2-2 書くこと3 書くこと3	

6 月 (12)	言葉の小窓1 日本語の音声(1)	<ul style="list-style-type: none"> 「子音」と「母音」の違いや、音の特徴について理解する。 「アクセント」「イントネーション」を変化させることによって、どのように意味が変わるのか、またそれによってコミュニケーションにどのような影響が出るのか、考える。 	伝国(1)イ(ア)		
	言葉(解説)1 日本語の音声(1)				
	漢字の広場1 漢字の部首(1)	<ul style="list-style-type: none"> 「部首」という概念を理解し、漢字の「部首」を確認したり、「形」から「義」や「音」を類推したりする。 	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)		
	漢字の練習(1)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字練習を行う。 	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	漢字の読み	
				漢字の書き	
	ベンチ(4)	<ul style="list-style-type: none"> 作品を読み、「ベンチ」の表す状況を捉えて、自分なりの課題をもつ。 「みちしるべ」の説明にそって、情報の集め方を理解する。 効果的な表現を考えながら、作品のポップや帯を作成する。 	C(1)カ 伝国(1)イ(ウ)		ちばっ子チャレンジ100 高学年 書くこと(2) 「新聞のリード文を書く」 NHK for school お伝と伝じろう 言葉が人を引きつける
	三 世界をひらく 写真と言葉が生み出す世界(4)	<ul style="list-style-type: none"> 詩と写真の組み合わせから、最も合っていると感じるものを選び、その理由について説明する。 写真と文章との関係について話し合い、その効果の違いについて話し合う。 メディアリテラシーについて理解し、身近なメディアについて話し合う。 	C(1)カ 伝国(1)イ(イ)		ちばっ子チャレンジ100 高学年 複数の情報(1) 複数の情報を関連付ける問題
		<ul style="list-style-type: none"> 一枚の写真から生まれるさまざまな文章を創作する。 	B(1)ウ		
7 月 (6)	芸術作品の鑑賞文を書く(4)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、鑑賞文について知る。美術の教科書を用いて、鑑賞の練習をする。教科書P72の作品から一つ選ぶ。 芸術作品を鑑賞する際の観点を確認し、前時で選んだ作品を鑑賞する。 丁寧に、詳しく書けそうな観点をいくつか絞り、鑑賞文を書く。 書いた文章を読み合い、根拠のあげ方について話し合う。自己評価をする。 	B(1)ウ 伝国(1)イ(ウ)		ちばっ子チャレンジ100 高学年 複数の情報(3) 推薦文を比較する NHK fou school
	文法の小窓1 言葉の単位(1)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がさまざまなまとまりに分かれることを理解する。 	伝国(1)イ(エ)		ちばっ子チャレンジ100 高学年 言語(8) 文の構成をとらえる
	文法(解説)1 言葉の単位(1)	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな文例をもとに、文や文節、単語にくぎる。 			
9 月 (12)	河童と蛙(1)	<ul style="list-style-type: none"> 詩の登場人物の役割を捉え、詩の内容を生かすように朗読する。 	C(1)ア C(1)ウ 伝国(1)イ(オ)		
	オツベルと象(7)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を音読し、擬声語・擬態語の使われ方の特徴とその効果を考える。 「オツベル」と「白象」はどのような人物として描かれているか会話部分に着目しながらまとめる。 「第一日曜」「第二日曜」のできごとと、「第五日曜」のできごとから、共通点と相違点を比べる。 	C(1)エ 伝国(1)イ(ア) 伝国(1)イ(イ) 伝国(1)イ(オ)	国語1 読むこと(文学的文章)1	NHK fou school 10min. ボックス 現代文 オツベルと象

		<ul style="list-style-type: none"> 「ああ、ありがとう。ほんとに僕は助かったよ。」(P94L7)と、白象が「寂しく笑って」言った理由について発表し合い、文章にまとめる。 「第一日曜」「第二日曜」と「第五日曜」では、牛飼いの語り方が変化していることを踏まえ、牛飼いがどのような気持ちでこの物語を語ったのかを考える。 『オツベルと象』についてグループごとに感想を述べ合い、交流したうえで、感想文を書く。 感想を発表し、交流する。 		読むこと(文学的文章)2 …登場人物の相互関係や心情の変化	
	【書く】 行事などの案内文を書く(4)	<ul style="list-style-type: none"> 行事の案内の中で伝えたいことを検討して、整理する。 伝えたい内容や、案内文の形式などを踏まえて書く。 教科書P98の「推敲のポイント」にそって推敲する。 案内文を読み合い、相手や目的に合った表現の仕方について考える。 	B(1)エ 伝国(1)イ(ウ)	国語1 書くこと②-2	
10 月 (16)	漢字の広場2 画数と活字の字体(1)	<ul style="list-style-type: none"> 実際に文字を書き記すための基準となる「教科書体」の活字に着目し、正確な画数と字形に基づいた文字を書く態度を身につけるとともに、画数をもとに漢和辞典の総画索引や部首索引を使用する方法を練習する。 	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)		
	言葉の小窓2 日本語の文字(1)	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読んで、「平仮名の成立」までを理解する。 前時で学習したことを復習し、「いろは歌」までを理解する。 	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)		
	言葉(解説)2 日本語の文字(1)				
	古典の扉を開く(3)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、歴史的仮名遣いに注意して川柳を視写したり音読したりして、その内容を想像し、文章にまとめる。 歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを知り、『東海道中膝栗毛』のあらすじを捉え、配役を決めて音読する。 『東海道中膝栗毛』のおもしろさについて話し合ったあと、「知音」の意味を踏まえて古典のよさについて考える。 	伝国(1)ア(ア) 伝国(1)ア(イ) C(1)ウ		
	物語の始まり(3)	<ul style="list-style-type: none"> 『竹取物語』について知っていることを発表したり、前半部を通読したり音読したりする。 後半部を通読したり音読したり、歴史的仮名遣いに注意しながら原文をノートに書き写したりする。 『竹取物語』について調べたり、話し合ったりして、そのおもしろさを考える。 	伝国(1)ア(ア) C(1)ウ		NHK fou school 10min. ボックス 古文・漢文 竹取物語
	故事成語(3)	<ul style="list-style-type: none"> 「矛盾」の盾と矛を売る人の話でつじつまの合わない点について考え、発表する。 書き下し文をノートに書き写したり音読したりして漢文訓読のきまりを理解する。 いろいろな故事成語の意味や由来を調べ、それを使った短い文を書き、発表する。 	伝国(1)ア(ア) C(1)ウ B(1)イ		NHK fou school 10min. ボックス 古文・漢文 漢文(1) 故事成語
	蜘蛛の糸(3)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、物語のあらすじを捉える。 『蜘蛛の糸』以外の近代小説を読む。 近代小説についての紹介文を書き、意見を交換する。 	C(1)カ 伝国(1)イ(イ)		NHK fou school 10min. ボックス 現代文 羅生門 トロッコ
	漢字の練習2(1)		伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)		
11 月 (14)	文章の構成や表現の特徴を捉えて読む 1 電子レンジの発想(2)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、文章の構成や展開を捉え、電子レンジの加熱の仕方を図式化して説明する。 表現の特徴について話し合い、文章の表現の仕方の工夫を捉え自分の表現に生かせるところはないか考え、ノートにまとめる。 	C(1)ア C(1)イ 伝国(1)イ(イ) 伝国(1)イ(オ)	国語1 読むこと(説明的文章)③	
	2 言葉のゆれを考える(3)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、筆者が読者に問いかけている文と、その答えにあたる文をそれぞれ抜き出し、それぞれの答えは何を根拠にしているか、探して確認する。 グラフから読み取れることを確かめる。また、いろいろな動詞を「……ことができる」を意味する形にする。 	C(1)ア C(1)イ 伝国(1)イ(ウ) B(1)ウ	国語1 読むこと(説明的文章)①	

	3 花の形に秘められたふしぎ (5)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、花の形にどのようなふしぎが秘められているのかを捉える。 「グラフ」を使って、花に集まる昆虫の偏りを具体的に説明する。 筆者はどのように事実と推論を述べているか、文章全体の構成と展開に着目して説明する。 昆虫と花の形の多様さとの関係について、本文やグラフの数値を用いながら説明する。 三つの教材文を比較し、構成・展開・表現に着目し、共通点や相違点をまとめる。 	C (1)ア C (1)イ C (1)エ 伝国 (1)イ (エ) B (1)イ		
	【話す聞く】 友達のスピーチを聞く (4)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中から話題を決め、スピーチ原稿を考える。 話す側、聞く側の役割を確認し、聞き手は、観点にそって友達のスピーチを聞き、適宜質問する。 前時の学習を振り返り、友達のスピーチを聞く。 よりよい聞き方について、友達と話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、友達のスピーチを聞く。 よりよい聞き方について、友達と話し合う。 	A (1)エ 伝国 (1)イ (ウ)	国語 1 聞くこと②-2 書くこと①-1	
12 月 (8)	【書く】 意見文を読み合う (4)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P142の『言葉のゆれを考える』を読み、自分の体験も踏まえながら、何について論じられた文章なのかをつかむ。 自分の立場を決め、「意見—根拠—まとめ」の順で構成を考える。 構成に注意し四百字程度で具体例を交えて意見文を書く。 書いた文章を推敲して、友達と読み合い、よいところなどについて話し合う。 	B (1)オ 伝国 (1)イ (イ)	国語 1 書くこと③	
	漢字の広場 3 漢字の音と訓 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字がそれぞれにもつ「音」と「訓」、二つの読み方の違いに注目させ、その使い分けや留意すべき特質について理解を深め練習課題を通じて知識の定着を図る。 	伝国 (1)ウ (ア) 伝国 (1)ウ (イ)		
	文法の小窓 2 (1) 文の成分 文法 (解説) 2 (2) 文の成分	<ul style="list-style-type: none"> 文節と文の成分の関係、主語・述語の関係について理解する。 主語・述語以外の文の成分には修飾語・接続語・独立語があることを理解する。 並立の関係・補助の関係と連文節について理解する。 	内容の取扱い 2 (1)イ (2年 伝国 (1)イ (ウ))		
1 月 (13)	言葉がつなぐ世界遺産 (6)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、筆者が問いている文と答えにあたる文をそれぞれ抜き出す。 日光の社寺の世界遺産としてのすばらしさについて、イコモスの専門家を驚かせた点をまとめる。 「修復記録の蓄積」と「世代を超えた技術の伝承」に対して「言葉」の使われ方、果たす役割についてまとめる。 筆者の言葉に対する捉え方について話し合い、題名に込められた筆者の思いに多雨する自分の考えをまとめる。 本文中で人物の語りが「」の形で引用されていることは、どのような効果をもたれしているかを考える。 日々の生活の中で、言葉によって思いが受け継がれていくように感じた体験を文章にまとめる。 			
	漢字の練習 3 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字練習を行う。 	伝国 (1)ウ (ア) 伝国 (1)ウ (イ)	漢字の読み 漢字の書き	

	図表を用いて報告する (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中からテーマを決めて、アンケート調査を行う。 ・アンケート結果を集計して、結果を図表に表す。 ・集めた調査結果を読み取り、書く順序を考える。 ・図表の内容をわかりやすく説明しながら、レポートを書く。 ・内容や表現を推敲する。 ・効果的な図表の用い方について、友達と話し合う。 		読むこと (説明的文章) ①	
2 月 (12)	四季の詩 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの詩のイメージを想像し、どのような季節感が描かれているか話し合う。 	C (1) ウ 伝国 (1) イ (オ)		
	文法の小窓 3 (3) 単語のいろいろ 文法 (解説) 3 単語のいろいろ	<ul style="list-style-type: none"> ・単語が自立語と付属語に分けられることを理解する。 ・活用のある単語と活用のない単語の区別を理解したうえで、文中ではたらかいによって十の品詞の全体像を把握し、具体的な文例に即して言葉を分けて考えることの大切さを理解する。 	伝国 (1) イ (エ)		
	漢字の練習 4	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習を行う。 	伝国 (1) ウ (ア) 伝国 (1) ウ (イ)	漢字の読み	
				漢字の書き	
	漢字の広場 4 (1) 熟語の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の漢字を組み合わせて作り出される言葉を「熟語」と呼ぶことを確認し、身近な例を取り上げ、構成法によって意味や内容が大きく変わること気づかせる。三文字以上の熟語の構成についてグループ学習で確認する。 	伝国 (1) ウ (ア) 伝国 (1) ウ (イ)		
	少年の日の思い出 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を通読し、あらすじを捉える。 ・登場人物を抜き出し、それぞれの関係についてノートにまとめる。 ・「僕」と「エーミール」のチョウに対する考え方の違いを捉え、「エーミール」に対する心情の変化をノートにまとめる。 ・「エーミール」の部屋を訪ねた時の「僕」の心情の変化を捉え、盗みを犯した理由を考える。 ・「僕」がチョウをこなごなにした理由を話し合う。 ・「考えよう」の課題について話し合いながら、語り手について考える。 	A (1) オ C (1) ウ C (1) オ 伝国 (1) イ (ウ)	国語 1 読むこと (文学的文章) 1	
3 月 (4)	アイデアを出して話し合う (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から話題を決め、話し合うための準備をする。 ・「話すこと」「聞くこと」の既習事項や話し合いのあり方を確認し、自分の考えをもつ。 ・役割を決めて、話題や方向にそった話し合いをする。 ・記録した音声や動画などを確認して改善すべき点などを話し合う。 	A (1) オ 伝国 (1) イ (オ)	聞くこと 1-1 聞くこと 1-2	

中学校第1学年「社会科」

期日	分野	単元名(教材名)	指導内容(学習活動)	学習指導要領の内容	対応する「ちばのやる気学習ガイド」 (令和3年3月にHP掲載予定)	備考	
4月 (6)	地理的分野	地理学習の初めに	○この国はどこかな ○地理学習の初めに		社会1 I 学習重点事項	「ちばのやる気」学習ガイドは、現行学習指導要領における記述	
		世界のさまざまな地域 1 世界の姿	1 地球の姿を見てみよう 2 地球儀と世界地図を比べてみよう 3 地球上の位置を表そう 4 世界の国々と地域区分 5 主な国々の国名と位置 ○この章の学習を確認しよう	第2 [地理的分野] 2 (1)ア	社会1 【地理的分野】 第1章 世界の様々な地域 (1) 世界の地域構成		
5月 (12)		日本のさまざまな地域 1 日本の姿	1 日本の位置を調べよう 2 日本と世界との時差をとらえよう 3 日本の領域の特色を見てみよう 4 いろいろな見方で都道府県を探ろう 5 日本をいくつかの地域に分けよう ○この章の学習を確認しよう	第2 [地理的分野] 2 (2)ア	社会2 【地理的分野】 第2章 日本の様々な地域 (1) 日本の地域構成	この単元は、移行措置対応でこの時期に学習 「3 日本の領域の特色を見てみよう」は、移行措置対応で学習	
6月 (12)		世界のさまざまな地域 2 世界各地の人々の生活と環境	○世界のさまざまな住居 1 雪と氷の中で暮らす人々 2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 3 温暖な土地に暮らす人々 4 乾燥した土地に暮らす人々 5 常夏の島で暮らす人々 6 標高の高い土地に暮らす人々 7 世界に見られるさまざまな気候と広がり 8 人々の生活に根付く宗教 9 伝統的な生活とその変化 ○イスラム教徒と人々の暮らし ○この章の学習を確認しよう	第2 [地理的分野] 2 (1)イ	社会1 【地理的分野】 第1章 世界のさまざまな地域 (2) 世界各地の人々の生活と環境		
		歴史学習の初めに	○日本の国宝・重要文化財, 日本の世界遺産 ○歴史学習の初めに				
		歴史の流れをとらえよう	1 身近なものに歴史がある! ? 2 「歴史の流れ」から思い出してみよう 3 「歴史の流れ」からまとめてみよう	第2 [歴史的分野] 2 内容(1)アウ	社会1 【歴史的分野】 第1章 歴史のとらえ方		

7 月 (6)	歴史的 分野	4 歴史の調べ学習をするには…?						
9 月 (12)		古代までの日本 1 世界の古代文明と 宗教のおこり	○古代までの日本 1 人類の出現と進化 2 古代文明のおこりと発展 1 学期の時数(3学期制) (標準時数 36時間)	第2 [歴史的分野] 2 内容(2)ア	社会1 【歴史的分野】 第2章 古代までの日本 (1) 世界の古代文明と日本の国家形成	4 「ギリシャ・ローマ の文明」は、移行措置 対応で学習		
		3 中国文明の発展						
		4 ギリシャ・ローマの文明						
		5 宗教のおこりと三大宗教						
		古代までの日本 2 日本列島の誕生と 大陸との交流	1 日本列島の誕生と縄文文化 2 弥生文化と邪馬台国 3 大王の時代	第2 [歴史的分野] 2 内容(2)イ				
10 月 (12)		古代までの日本 3 古代国家の歩みと 東アジア世界	1 聖徳太子の政治改革 2 大化の改新 3 律令国家の成立と平城京 4 奈良時代の人々の暮らし 5 天平文化 6 平安京と東アジアの変化 7 摂関政治と文化の国風化 ○絵巻物を見てみよう ○現代に受けつがれる神話 ○考古学のとびら ○この時代(古代までの日本)の特色をとらえよう	第2 [歴史的分野] 2 内容(2)イ	社会1 【歴史的分野】 第2章 古代までの日本 (2) 国家整備と天皇・貴族の政治 (3) 国際色豊かな文化と国風文化			
		身近な地域の歴史	○身近な地域の歴史を調べよう	第2 [歴史的分野] 2 内容(1)イ		社会1 【歴史的分野】 第1章 歴史のとらえ方		
		11 月 (12)	世界のさまざまな地域 3 世界の諸地域 1 アジア州 ～急速に進む 成長と変化～	1 アジア州をながめて 2 成長する東アジア① アジアNIESの出現 3 成長する東アジア② 中国の発展 4 東南アジアの発展と課題 5 南アジアで急速に成長するインド 6 資源の豊かな西アジア・中央アジア ○アジア州の学習をふり返ろう ○アジアで交流する文化		第2 [地理的分野] 2 内容(1)ウ(ア)	社会1 【地理的分野】 第1章 世界のさまざまな地域 (3) 世界の諸地域 ア アジア	「3世界の諸地域」 は、移行措置対応で学 習
								「アジアは、なぜ急速 に成長したのでしょうか」 を学習テーマにし た単元構成

12月 (9)	地理的分野	世界のさまざまな地域 3 世界の諸地域 2 ヨーロッパ州 ～国どうしの 統合による変化～	1 ヨーロッパ州をながめて 2 ヨーロッパの文化の共通性 3 進むヨーロッパの統合 4 ヨーロッパの課題とロシア連邦 ○ヨーロッパ州の学習をふり返ろう ○環境に配慮されたヨーロッパ社会	第2 [地理的分野] 2 内容(1)ウ(イ)	社会1 【地理的分野】 第1章 世界のさまざまな地域 (3) 世界の諸地域 イ ヨーロッパ	「ヨーロッパの国々は、なぜ国家間の統合を進めたのでしょうか」を学習テーマにした単元構成
		世界のさまざまな地域 3 世界の諸地域 3 アフリカ州 ～特定の生産品にたよ る生活からの変化～	1 アフリカ州をながめて 2 アフリカの産業と新たな開発 3 アフリカの課題と展望 ○アフリカ州の学習をふり返ろう ○大自然を生かした観光開発	第2 [地理的分野] 2 内容(1)ウ(ウ)	社会1 【地理的分野】 第1章 世界のさまざまな地域 (3) 世界の諸地域 ウ アフリカ	「アフリカでは、なぜ農業や鉱業の生産品が、特定の産物にかたよっているのでしょうか」を学習テーマにした単元構成
		世界のさまざまな地域 3 世界の諸地域 4 北アメリカ州 ～盛んな産業や 工業の特色～	1 北アメリカ州をながめて 2 広大な国土と工業化した農業 3 工業の発展と工業地域 4 産業を支える新しい文化と人々 ○北アメリカ州の学習をふり返ろう ○多民族社会を形成するアメリカ 2 学期の時数(3 学期制) (標準時数 45 時間)	第2 [地理的分野] 2 内容(1)ウ(エ)	社会1 【地理的分野】 第1章 世界のさまざまな地域 (3) 世界の諸地域 エ 北アメリカ (中央アメリカを含む)	「北アメリカでは、なぜさまざまな産業が盛んなのでしょうか」を学習テーマにした単元構成
1月 (9)	地理的分野	世界のさまざまな地域 3 世界の諸地域 5 南アメリカ州 ～開発の進展と 環境問題～	1 南アメリカ州をながめて 2 自然環境と共生する人々 3 開発の進行とその影響 ○南アメリカ州の学習をふり返ろう ○南アメリカで活躍する日系移民	第2 [地理的分野] 2 内容(1)ウ(オ)	社会1 【地理的分野】 第1章 世界のさまざまな地域 (3) 世界の諸地域 オ 南アメリカ	「南アメリカでは、なぜ開発が進んだのでしょうか」を学習テーマにした単元構成
		世界のさまざまな地域 3 世界の諸地域 6 オセアニア州 ～強まるアジアとの 結び付き～	1 オセアニア州をながめて 2 資源によりアジアとのつながり 3 人々によるアジアとのつながり ○オセアニア州の学習をふり返ろう ○水没の危機にあるとされるツバル ○世界の諸地域の学習を確認しよう	第2 [地理的分野] 2 内容(1)ウ(カ)	社会1 【地理的分野】 第1章 世界のさまざまな地域 (3) 世界の諸地域 カ オセアニア	「オセアニアでは、なぜアジアとの結び付きが強くなってきたのでしょうか」を学習テーマにした単元構成
2月 (12)		中世の日本 1 武士の台頭と鎌倉幕府	○中世の日本 1 武士の成長 2 武士の政権の成立 3 鎌倉幕府の成立と執権政治 4 武士と民衆の生活 5 鎌倉時代の文化と宗教	第2 [歴史的分野] 2 内容(3)アイ		

3 月 (3)	歴史的 分野	2 東アジアの世界との 関わりと社会の変動	1 モンゴルの襲来と日本	第2 [歴史的 分野] 2 内容(3)アイ	社会1 【歴史的 分野】 第3章 中世の日本 (1) 武家政治の成立と広まり (2) 諸産業の発達と都市や農村の自治	1 「モンゴルの襲来と 日本」は、移行措置対 応で学習
			2 南北朝の動乱と室町幕府			
			3 東アジアとの交流			
			4 産業の発達と民衆の生活			
			5 応仁の乱と戦国大名			
			6 室町文化とその広がり			
			○東アジア世界の朝貢体制と琉球王国			
			○室町時代の生活文化と現代			
			○この時代(中世)の特色をとらえよう			
			3 学期の時数(3 学期制) (標準時数 24 時間)			
	年間の時数(標準時数 105 時間)					

中学校第1学年「数学科」

時期 (時数)	単元名(教材名)	指導内容(学習内容)	学習指導要領の内容	対応する「ちばのやる気学習ガイド」	備考(留意点等)
4 月 (10)	1章 正の数・負の数 1節 正の数・負の数			中1 数学「正の数・負の数」	
	1 0より小さい数	<ul style="list-style-type: none"> 負の数の意味と表し方数 〈- (マイナス), 負の数, 正の数+(プラス), 正の符号, 負の符号, 自然数〉 正の数・負の数と数直線 	A(1)ア		
	2 正の数・負の数で量を表すこと	<ul style="list-style-type: none"> 次のような量を, 正の数・負の数を使って表すこと 反対の性質をもつと考えられる量 基準とした量からの増減や過不足 反対の性質を表す2つのことばを, 正の数・負の数を使って, その一方のことばで表すこと 	A(1)ア, エ		
	3 絶対値と数の大小	<ul style="list-style-type: none"> ある数と, その符号を変えた数との関係〈絶対値〉 絶対値の意味 正の数・負の数の大小 正の数・負の数の大小を, 不等号を使って表すこと 数直線を用いて, ある数より大きい数, 小さい数を求めること 	A(1)ア		
	2節 正の数・負の数の計算 1 正の数・負の数の加法, 減法	<ul style="list-style-type: none"> 正の数・負の数をたす計算 2数の和の符号と絶対値, 0との和 小数や分数の加法 加法の計算法則 正の数・負の数をひく計算 〈加法, 加法の交換法則, 加法の結合法則, 減法〉 	A(1)イ, ウ		
5 月 (12)	2 加法と減法の混じった計算	<ul style="list-style-type: none"> 加法と減法の混じった計算〈項, 正の項, 負の項〉 	A(1)ウ	中1 数学「正の数・負の数の計算」	
	3 正の数・負の数の乗法, 除法	<ul style="list-style-type: none"> 正の数をかけること, 負の数をかけること 正の数・負の数でわること 2数の積・商の符号と絶対値, 0との乗除 小数をふくむ乗除 〈乗法, 除法〉 	A(1)イ, ウ		
	4 乗法と除法の混じった計算	<ul style="list-style-type: none"> 分数をふくむ乗法 逆数の意味 除法を乗法になおすこと 分数をふくむ除法 乗法の計算法則 〈逆数, 乗法の交換法則, 乗法の結合法則〉 	A(1)ウ		
	5 いろいろな計算	<ul style="list-style-type: none"> 指数の意味 四則をふくむ式の計算 分配法則 〈2乗, 3乗, 指数, 四則, 分配法則〉 	A(1)ウ		

	6 数の世界のひろがり と四則計算	<ul style="list-style-type: none"> 数の範囲と計算の可能性 数の拡張 	内取(1)		
6 月 (16)	3節 正の数・負の数の 利用				
	1 正の数・負の数の利 用	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面で、正の数・負の数を用いて表現し、処理すること 	A(1) ア, エ	中1 数学「正の数・負の数の利用」	
	章末	<ul style="list-style-type: none"> 基本の問題, 章末問題 			
	a 素数の積で表すこと	<ul style="list-style-type: none"> 素数の意味 自然数を素因数分解すること 素因数分解を用いて数の性質をとらえること 	新内取(1)	中1 数学「正の数・負の数の利用」	
	2章 文字の式				
	1節 文字を使った式	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使って数量を式に表すこと 	A(2)ア		
	2 文字式の表し方	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使った式の積の表し方 文字を使った式の商の表し方 文字式の表し方にしたがって数量を式に表すこと 文字式がどのような数量を表しているかを読み取ること 	A(2)ア, イ, エ	中1 数学「文字式」	
7 月 (10)	3 式の値	<ul style="list-style-type: none"> 代入, 文字の値, 式の値の意味 文字の値がいろいろな場合の式の値を求めること いろいろな形の式について, その式の値を求めること <p><代入, 文字の値, 式の値></p>	A(2)ア, イ		
	2節 文字式の計算				
	1 文字式の加法, 減法	<ul style="list-style-type: none"> 項, 係数, 1次の項, 一次式の意味 式を簡単にすること 一次式の加法, 減法 <p><項, 係数, 1次の項, 一次式></p>	A(2)ウ		
	2 文字式と数の乗法, 除 法	<ul style="list-style-type: none"> 一次式と数の乗法 一次式と数の除法 (数×一次式)と(数×一次式)の加法, 減法 	A(2)ウ	中1 数学「文字式の計算」	
	3 関係を表す式	<ul style="list-style-type: none"> 等式, 不等式の意味 数量の関係を等式, 不等式に表すこと 等式, 不等式で表された数量の関係を読み取ること <p><等式, 左辺, 右辺, 両辺, 不等式, \geq, \leq></p>	A(2)エ, 内取(2)		
	章末	<ul style="list-style-type: none"> 基本の問題, 章末問題 			
9 月 (12)	3章 方程式				
	1節 方程式				
	1 方程式とその解	<ul style="list-style-type: none"> 方程式とその解の意味, 方程式を解くことの意味 等式の性質を用いて方程式を解くこと <p><方程式, (方程式の) 解, 方程式を解く></p>	A(3)ア, イ		

10 月 (16)	2 方程式の解き方	<ul style="list-style-type: none"> ・移項の意味 ・移項して方程式を解くこと ・いろいろな方程式を解くこと 一次方程式の意味 一次方程式を解く手順 <移項, 一次方程式>	A(3)ウ	中1 数学「一次方程式」	
	3 比と比例式	<ul style="list-style-type: none"> ・比例式と比例式を解くことの意味 ・比例式の性質を知り, それを用いて比例式を解くこと <比の値, 比例式, 比例式を解く>	内取(3)		
	2節 方程式の利用 1 方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式をつくる手順 ・方程式を利用して実際の問題を解くこと 方程式の解が, 問題にあっているかどうかを吟味すること 方程式を使って問題を解く手順	A(3)ウ	中1 数学「一次方程式の利用」	
	2 比例式の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・比例式を利用して, 実際の問題を解くこと 	内取(3)		
	章末	<ul style="list-style-type: none"> ・基本のたしかめ, 章末問題 			
	4章 変化と対応 1節 関数 1 関数	<ul style="list-style-type: none"> ・変数と関数の意味 ・関数のようすを, 表やグラフで調べること 変数の意味を理解し, 変数を不等号を用いて表すこと <変数, 関数, 変域>	A(3)ア	中1 数学「関数関係の意味」	
	2節 比例 1 比例の式	<ul style="list-style-type: none"> ・式から定数の意味を理解し, 比例の関係をj知ること ・比例定数の意味と比例の性質 与えられた条件から比例の式を決めること <定数, 比例, 比例定数>	C(1)イ, エ		
	2 座標	<ul style="list-style-type: none"> ・座標の意味を理解し, 点を座標平面上に表すこと ・座標を用いて, 平面上の点が一意的に表されること <x軸, y軸, 座標軸, 原点, 座標, x座標, y座標>	C(1)ウ	中1 数学「座標の意味」	
	3 比例のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・比例のグラフの意味とかき方 ・比例のグラフの特徴 変域に制限がある場合の比例のグラフ 	C(1)エ		
	3節 反比例 1 反比例の式	<ul style="list-style-type: none"> ・反比例の関係を式に表すこと ・比例定数の意味と反比例の性質 与えられた条件から反比例の式を決めること <反比例, (反比例の) 比例定数>	C(1)イ, エ	中1 数学「反比例の表, 式, グラフ」	
2 反比例のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・反比例のグラフの意味とかき方 ・反比例のグラフの特徴 <双曲線>	C(1)エ			
11 月 (16)	4節 比例, 反比例の利用 1 比例, 反比例の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・比例や反比例の関係をj用いて, 具体的な場面の問題を解決すること 	C(1)オ	中1 数学「比例の表, 式, グラフ」 中1 数学「反比例の表, 式, グラフ」	

	章末	・基本のたしかめ，章末問題			
	5章 平面図形				
	1節 直線図形と移動				
	1 直線と図形	<ul style="list-style-type: none"> ・直線，線分，半直線の意味 ・2点間の距離の意味 垂直な2直線，平行な2直線の意味と表し方 点の直線との距離，平行な2直線間の距離の意味 三角形の表し方 <線分，半直線，2点間の距離，∠，交点，垂直，⊥，垂線 点と直線との距離，平行，//，平行な2直線の距離，△>	B(1)		中1 数学「平行移動・対称移動・回転移動」
	2 図形の移動	<ul style="list-style-type: none"> ・平行移動の意味とその性質 ・回転移動の意味とその性質 ・対称移動の意味とその性質 3つの移動の組み合わせで，どんな位置にでも移すことができること <移動，平行移動，回転移動，回転の中心，点対称移動， 対称移動，対称移動，対称の軸，中点，垂直二等分線>	B(1)イ		
	2節 基本の作図				
	1 基本の作図	作図の意味 <ul style="list-style-type: none"> ・線分の垂直二等分線を作図すること ・角の二等分線を作図すること ・垂直を作図すること 基本の作図の利用 <(角の)二等分線>	B(1)ア		中1 数学「基本の作図とその活用」
12月(12)	3節 円とおうぎ形				
	1 円とおうぎ形の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・円の弧と弦の意味と表し方 弧や弦に対する中心角の意味 直線が円に接すること，接線，接点の意味と円の接線の性質 おうぎ形とおうぎ形の中心角の意味 等しい中心角に対するおうぎ形の弧の長さや面積の関係 	B(1)，内取(4)		中1 数学「円とおうぎ形」
	2 円とおうぎ形の計量	<ul style="list-style-type: none"> ・πの意味とπを使った円の周の長さや面積の求め方 ・おうぎ形の弧の長さや面積の求め方 	B(1)ウ		
	章末	・基本のたしかめ，章末問題			
1月(11)	6章 空間図形				
	1節 立体と空間図形				
	1 いろいろな立体	<ul style="list-style-type: none"> ・角錐，円錐とその頂点，側面，底面 多面体 ・角柱，角錐の見取図や展開図 正角柱と正角錐 ・円柱，円錐の見取図や展開図 <角錐，円錐，底面，側面，頂点，多面体>	B(2)イ，内取(5)		
	2 空間内の平面と直線	平面が1つに決まる条件 <ul style="list-style-type: none"> ・空間内の2直線の位置関係 	B(2)ア		中1 数学「空間図形の構成・位置関係」

		<ul style="list-style-type: none"> 空間内の直線と平面の位置関係 点と平面との距離，柱体や錐体の高さ 空間内の2平面の位置関係 <ねじれの位置，直線と平面の平行，直線と平面の垂直 平面の垂線，点と平面との距離，2平面の平行， 2平面の垂直>			
	3 立体のいろいろな見方	<ul style="list-style-type: none"> 平面図形を平行に動かして構成される立体 平面図形を回転して構成される立体 直線を平面図形の周に沿って動かして構成される立体 母線の意味 <ul style="list-style-type: none"> 立体の投影図 <回転体，回転の軸，母線，立面図，平面図，投影図>	B(2)イ，内取(5)		中1 数学「空間図形の展開図・投影図」
	2節 立体の表面積と体積				
2月 (15)	1 立体の表面積	<ul style="list-style-type: none"> 角柱，円柱の表面積の求め方 角錐，円錐の表面積の求め方 	B(2)ウ		中1 数学「立体の表面積と体積」
	2 立体の体積	<ul style="list-style-type: none"> 角柱，円柱の体積の求め方 角錐，円錐の体積の求め方 	B(2)ウ		
	3 球の計量	<ul style="list-style-type: none"> 球の表面積と体積の求め方 	B(2)ウ		
	章末 7章 資料の活用				
	1節 資料の傾向を調べよう				
	1 度数分布	<ul style="list-style-type: none"> 度数分布表やヒストグラム，度数分布多角形，累積度数，相対度数，累積相対度数の必要性和意味 度数分布表やヒストグラム，度数分布多角形，相対度数，累積度数，累積相対度数を用いて，資料の傾向をとらえ説明すること <階級，度数，度数分布表，ヒストグラム，度数分布多角形，累積度数，相対度数，累積相対度数>	D(1)ア，イ		中1 数学「ヒストグラムや代表値の意味」
	2 代表値と散らばり	<ul style="list-style-type: none"> 代表値の必要性和意味 代表値には，分布のようすなどの情報がないことを知ること 散らばりに注意して目的にあった代表値を選ぶこと <平均値，代表値，中央値（メジアン），最頻値（モード） 階級値，範囲（レンジ）>	D(1)ア，イ		中1 数学「ヒストグラムや代表値の利用」
3月 (10)	3 近似値	【省略】	内取(6)		
	4 調べたことをまとめ，発表しよう		D(1)イ		
	章末				
	【補助教材】				
	b節 データにもとづく確率				
	1 起こりやすさと確率	<ul style="list-style-type: none"> 実験を通して確率の意味を考え，確率を定義すること 統計的な確率について，その意味を考えること <確率>	新D(2)ア(ア)		中1 数学「確率の意味と求め方，確率の利用」

中学校第1学年「理科」

時期 (時数)	単元名(教材名)	指導内容(学習内容)	学習指導要領の内容	対応する「ちばのやる気学習ガイド」 (令和3年3月にHP掲載予定)	備考(留意点等)
4 月 (9)	身近な生物の観察 校庭や学校周辺の生物を観察しよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> 校庭や学校周辺の生物の観察を行い、さまざまな環境の中にそれぞれ特徴ある生物が生活していることを概観させる。 タンポポの花や果実の観察を行い、ルーペの使い方やスケッチのしかたなどを習得させる。 	2分野 (1) ア (ア)	ステップチェック「生物の観察」 目標② 「身近な植物をルーペや双眼実体顕微鏡を使って正しく観察でき、観察記録の取り方やスケッチが正しくできる」 P 8 3	
	植物と生えている場所の特徴を調べる (2)	<ul style="list-style-type: none"> 環境を光と水の量の観点でとらえ、さまざまな環境の中でそれぞれ特徴ある植物が生活していることを概観させる。 環境によって生育する植物の種類や生育状況に相違があることに気づかせる。 観察レポートの書き方を習得させる。 	2分野 (1) ア (ア)	ステップチェック「生物の観察」 目標④ 「植物は日当たりのよい場所、悪い場所など、いろいろな環境条件で生活しており、その種類や成長の様子はさまざまであることを説明できる」 P 8 5 目標⑤ 「公園や空き地に生活する植物の分布と人の生活とを関連付けて考察できる」 P 8 6	
	水中で生活している微小な生物を観察する (2)	<ul style="list-style-type: none"> 水中の微小な生物の観察を行うことで、いろいろな生物がさまざまな場所で生活していることを認識させる。 水中の微小な生物の観察を行い、顕微鏡の操作などの技能を習得させる。 	2分野 (1) ア (ア)	ステップチェック「生物の観察」 目標③ 「水中の微小生物を顕微鏡を使って正しく観察し、その名前と大きさを調べることができる」 P 8 4	
	身近な植物の観察を続けてみよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> 植物を継続観察し、成長や花の変化の特徴を見いださせる。 	2分野 (1) ア (ア)	ステップチェック「生物の観察」 目標① 「植物が発芽、成長、実を結ぶ過程を季節の変化と関連付けておおまかに理解できる」 P 8 2	
	1章 植物の体のつくりとはたらき 1 花のつくりとはたらき (4) A 花のつくり	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での既習事項を振り返るとともに、単元の学習内容について見通しをもたせる。 花を観察し、外側からがく、花弁、おしべ、めしべの順に構成されていることを理解させる。 めしべが柱頭、子房などから成り立っていること、子房には胚珠が、おしべの葯には花粉が入っていることを理解させる。 	2分野 (1) イ (ア)	ステップチェック「花のつくりとはたらき」 目標① 「アサガオなどの花の各部分の名称がわかる」 P 8 8 ステップチェック「花のつくりとはたらき」 目標③ 「植物によって花弁やおしべの形、数などの違いがあること、がく片、花弁、めしべの配列が共通していることを理解できる」 P 9 0	
5 月 (9)	B 花のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 花粉が柱頭につくと胚珠が種子になり、子房が果実になることを理解させる。 		ステップチェック「花のつくりとはたらき」 目標② 「実ができるためにはどのようなはたらきが必要か指摘できる」 P 8 9	
	C 裸子植物・被子植物	<ul style="list-style-type: none"> 裸子植物のマツの花を観察し、被子植物の花のつくりとのちがいに気づかせる。 		ステップチェック「花のつくりとはたらき」 目標④ 「被子植物と裸子植物の花のつくりを観察し各部の役割について対比して特徴を理解できる」 P 9 1	

3 葉のつくりとはたらき 葉のつくり (0. 5)	・葉には葉脈があること、植物によって葉脈のようすには網状脈と平行脈があることを理解させる。	2分野 (1) イ (イ)	該当なし	(該当箇所教科書 p. 38) 移行措置による変更箇所
4 茎・根のつくりとはたらき 根のつくり (0. 5)	・根のつくりについて知る。	2分野 (1) イ (イ)	ステップチェック「種子植物のなかま」 目標② 「植物の葉脈は、網状脈、並行脈、根は主根・側根、ひげ根と区別されることを図を見て理解できる」 P 1 0 1	(該当箇所：教科書 p. 46 (1～6行目および 図27)) 移行措置による変更箇所
2章 植物のなかま分け 1 種子植物の特徴 (1)	・葉脈、茎や根などの特徴にもとづいて、これまで学習してきた多様な植物を表にまとめ、比較する。 ・同じ種類の植物であれば、葉脈の形状や茎の維管束の並び方などに同じ特徴があることに気づかせ、それらを基準にした分類を理解させる。	2分野 (1) ウ (ア)	ステップチェック「種子植物のなかま」 目標③ 「植物をなかまわけするためには植物のどのような特徴をもとにすればよいか指摘できる」 P 1 0 2	
2 種子をつくらない植物の特徴 (2)	・シダ植物やコケ植物は種子をつくらない植物のなかまであることを知り、観察して特徴をまとめさせる。	2分野 (1) ウ (イ)	ステップチェック「種子をつくらない植物のなかま」 目標① 「シダ植物やコケ植物の名前と特徴を例をあげていえる」 目標② 「シダ植物やコケ植物をその特徴でなかまわけできる」 P 1 0 6 ステップチェック「種子をつくらない植物のなかま」 目標③ 「シダ植物やコケ植物の体のつくりや胞子、胞子のうのはたらきを理解できる」 P 1 0 7 ステップチェック「種子をつくらない植物のなかま」 目標④ 「シダ植物やコケ植物の栄養の取り方やふえ方を種子植物と比較し生活の仕方の違いを指摘できる」 P 1 0 8	
3 植物のなかま分け (1)	・分類表をもとに、例示された植物がどのなかまに入るか考えさせ、植物の種類を知る方法を理解させる。	2分野 (1) ウ (ア) (イ)	ステップチェック「種子植物のなかま」 目標④ 「身近な植物を葉、茎、根、花の様子をもとにしてなかまわけができる」 P 1 0 3	
3章 動物のなかま 1 セキツイ動物と無セキツイ動物 (1)	・単元はじめの「身近な動物の観察」を思い出させ、動物は背骨の有無によってセキツイ動物と無セキツイ動物の2つに分けられること、さらにセキツイ動物は5つのグループに分けられることを理解させる。	2分野 (3) ウ (ア)	ステップチェック「セキツイ動物の仲間」「無セキツイ動物の仲間」(理科2の冊子より) 目標① 「セキツイ動物、無セキツイ動物の名前をそれぞれいえる」 P.1.0.8.の.1...2	移行措置による追加箇所

	2 セキツイ動物のなかま (3)	<ul style="list-style-type: none"> セキツイ動物の5つのグループは、子の残し方、呼吸のしかた、体の表面のようす、体温の保ち方などの特徴によって分けられることを理解させる。 	2分野 (3) ウ (ア)	ステップチェック「セキツイ動物の仲間」「無セキツイ動物の仲間」(理科2の冊子より) 目標② 「身近なセキツイ動物や無セキツイ動物の特徴を子の産まれ育ち方、体温の保ち方、呼吸のしかたなどを基にして仲間わけができる」 P 1 0 9 の 1, 2 目標③ 「セキツイ動物、無セキツイ動物を仲間わけするためには動物のどのような特徴を基にすればよいか説明できる」 P 1 1 0 の 1	移行措置による追加箇所
6月 (12)	3 無セキツイ動物のなかま (3)	<ul style="list-style-type: none"> ザリガニやイカの観察を行い、無セキツイ動物とセキツイ動物との体の特徴の相違点、共通点を見だし、無セキツイ動物もセキツイ動物と同じように生活に必要な器官をもっていることを理解させる。 節足動物の特徴を理解させ、節足動物のなかまは甲殻類、昆虫類などに分けられることを理解させる。 二枚貝や巻貝、タコやイカなどの軟体動物も無セキツイ動物であることを理解させ、軟体動物の特徴も理解させる。 ミミズやクラゲなど、節足動物や軟体動物以外の無セキツイ動物についても理解させ、身近な河川や海岸に見られることも知らせる。 	2分野 (3) ウ (イ)	ステップチェック「セキツイ動物の仲間」「無セキツイ動物の仲間」(理科2の冊子より) 目標① 「セキツイ動物、無セキツイ動物の名前をそれぞれいえる」 P 1 0 8 の 3 目標② 「身近なセキツイ動物や無セキツイ動物の特徴を子の産まれ育ち方、体温の保ち方、呼吸のしかたなどを基にして仲間わけができる」 P 1 0 9 の 3 目標③ 「セキツイ動物、無セキツイ動物を仲間わけするためには動物のどのような特徴を基にすればよいか説明できる」 P 1 1 0 の 2	移行措置による追加箇所
	終章 植物のなかま分けを考える (2)	<ul style="list-style-type: none"> 植物のなかま分けの知識をもとに、植物の検索カードや検索表をつくらせる。 	2分野 (1) ウ (ア) (イ)	該当なし	
	まとめ・単元末問題 (1)			該当なし	
	1 身のまわりの物質 (1) A 物質とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3～6年で学習してきた内容について思い出させる。 中学校でこれから学習する内容について概観させる。 	1分野 (2) ア (ア)	該当なし	
	B 似ている物質を区別する方法	<ul style="list-style-type: none"> 実験では火気を使い、さまざまな試薬も使用するので、安全への配慮を確実にさせる。 物質をつくっている材料と、形や大きさを区別させることで、物質の意味を理解させる。 身のまわりやイラストを例に、いろいろな材料の性質に着目させ、物質を分類させる。 レポートの書き方の例をもとに、実際に実験レポートを作成させる。 	1分野 (2) ア (ア)	ステップチェック「身の回りの物質とその性質」 目標①身の回りの物質はいろいろな性質を持っていて、物質を見分ける手がかりとなることが理解できる。 P 5 1 ステップチェック「身の回りの物質とその性質」 目標②ガスバーナー、てんびんを正しく扱うことができる。 P 5 2	

	2 有機物と無機物 (3) A 有機物と無機物の区別	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の操作, 加熱のしかたなどの技能を身につけさせる。 ・いろいろな物質を加熱したときの变化から, 有機物と無機物の性質のちがいを見いださせる。 ・発生した物質の確認方法とともに, 空試験の重要性を理解させる。 	1 分野 (2) ア (ア)	該当なし	
	B プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的なプラスチックの性質を理解させる。 ・用途などについてそれぞれのプラスチックの特性と関連づけて理解させる。 	1 分野 (2) ア (ア)	該当なし	
	3 金属の性質 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物質が金属か非金属かを見分け, 金属が共通してもつ性質を理解させる。 ・実験結果を分析していく過程を通して, きまりを見いださせる。 	1 分野 (2) ア (ア)	ステップチェック「身の回りの物質とその性質」 目標③加熱したときの变化の違いや金属と金属でないものとの違いを観察, 実験で見分けることができ, 観察, 実験結果の記録ができる。 P 5 3	
7 月 (6)	4 密度 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・物質によって密度が異なることを理解させ, 物質を見分ける手がかりになることを見いださせる。 ・天秤やメスシリンダーの操作を通して, 質量や体積のはかり方の技能を身につけさせる。 ・誤差とそれを減らす方法としての平均について理解させる。 ・密度を使うことで, 質量から体積, 体積から質量を求められることを理解させる。 ・水中での浮き沈みから, 水に対する密度の大小が求められることを理解させる。 	1 分野 (2) ア (ア)	ステップチェック「身の回りの物質とその性質」 目標④密度は, 物質によって決まっていることを理解できる。 P 5 3 ステップチェック「身の回りの物質とその性質」 目標⑤密度や導電性, 可燃性等を判断の根拠として, 物質の違いを説明できる。 P 5 4	
	1 身のまわりの気体 (3) A 気体の性質の調べ方	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素と二酸化炭素の性質のちがいを, 実験を通して気づかせる。 	1 分野 (2) ア (イ)	ステップチェック「気体の発生と性質」 目標①身近な気体の性質を理解できる。 P 5 6	
	B 気体の集め方	<ul style="list-style-type: none"> ・気体によって特有な性質があることを理解させ, その性質に適した捕集法を見いださせる。 	1 分野 (2) ア (イ)	ステップチェック「気体の発生と性質」 目標②気体を発生しさせる方法や捕集法の技能を身に付ける。 P 5 6	
	C 酸素と二酸化炭素の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素と二酸化炭素の発生を確認する方法を, それぞれの特性と関連づけて理解する。 ・異なる方法を用いても同一の気体が得られることを理解させる。 	1 分野 (2) ア (イ)	ステップチェック「気体の発生と性質」 目標③気体の種類によって特性があり, それに応じた捕集法があることがわかる。 P 5 7	
	2 いろいろな気体 (1) (2) ア (イ)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンモニアの噴水や水素の爆発の実験を通して, いろいろな気体に関心をもたせる。 ・いろいろな気体の種類による特性を表などから見いださせる。 	1 分野 (2) ア (イ)	ステップチェック「気体の発生と性質」 目標④気体を発生させ, 性質を調べ, 違いを説明できる。 P 5 8 目標⑤気体を発生させる物質の組み合わせや捕集法から, 発生した気体は何か説明できる。 P 5 9	

9 月 (9)	2 いろいろな気体 (1) (2) ア (イ)	<ul style="list-style-type: none"> アンモニアの噴水や水素の爆発の実験を通して、いろいろな気体に関心をもたせる。 いろいろな気体の種類による特性を表などから見いださせる。 	1 分野 (2) ア (イ)	ステップチェック「気体の発生と性質」 目標④気体を発生させ、性質を調べ、違いを説明できる。 P 5 8 目標⑤気体を発生させる物質の組み合わせや捕集法から、発生した気体は何か説明できる。 P 5 9	
	1 状態変化と質量 (2) A 液体⇌固体の変化	<ul style="list-style-type: none"> 物質の状態変化について観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが、質量は変化しないことを見いださせるとともに、物質そのものは変化しないことに気づかせる。 	1 分野 (2) ウ (ア)	ステップチェック「状態変化と熱」 目標①固体の物質を加熱すると、液体、気体への状態変化することが理解できるとともに、粒子モデルで違いを表すことができる。 P 7 1 目標②物質は、状態変化するときには体積が変わることが理解できる。 P 7 2	
	B 液体⇌気体の変化		1 分野 (2) ウ (ア)		
	2 状態変化と粒子の運動 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 物質が粒子でできていることを理解させ、物質の状態変化による体積や質量の変化を、粒子概念で説明できるようにする。 	1 分野 (2) ウ (ア)	ステップチェック「状態変化と熱」 目標⑤状態変化をもとに、現象を粒子の運動で説明することができる。 P 7 5	
	3 状態変化と温度 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 物質が状態変化するときの温度を測定し、融点や沸点は物質の種類によって決まっていること、融点や沸点の測定により未知の物質の種類を推定できることを見いださせる。 	1 分野 (2) ウ (イ)	ステップチェック「物質の融点と沸点」 目標①液体は、冷やすと固体になり、熱すると気体になることが理解できる。 P 7 7 目標②物質は、状態変化をするときには熱の出入りがともなうことが理解できる。 P 7 7 目標③状態変化する温度は物質によって決まっていることが理解できる。 P 7 8	
	4 蒸留 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 沸点が異なることを利用して、2種類の液体の混合物から物質を分離できることを見いださせる。 	1 分野 (2) ウ (イ)	ステップチェック「物質の融点と沸点」 目標④沸点の違いを利用した混合液の分け方が理解できる。 P 7 9	
	1 物質の溶解 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 物質が水に溶けるようすの観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いださせる。 	1 分野 (2) イ (ア)	ステップチェック「物質の溶解」 目標①有色の結晶が水に溶ける様子を観察し、水溶液のどの部分も色が同じ濃さになっていることに気付くことができる。 P 6 1 目標③水溶液の中では溶けている物質が均一に散らばっていることが理解できる。 1 (1) ~ (4) P 6 2 目標④物質が水に溶けると、水溶液の濃さはどの部分でも同じであり、時間がたっても下の方や上の方に集まったりしないことが理解できる。 P 6 3	
10 月 (12)	2 溶解と物質の粒子 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 物質の溶解現象を通して、物質が粒子でできていることを理解させ、粒子の大きさが目で見えるよりも、もっと細かいことを把握させる。 	1 分野 (2) イ (ア)	ステップチェック「物質の融解」 目標②物質が水に溶ける様子を粒子のモデルで示すことができる。 P 6 1	

3 溶解度と再結晶 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 再結晶の実験を行い、温度による溶質の水への溶けやすさのちがいなどを利用して、水溶液から溶質をとり出せることを理解させる。 	1 分野 (2) イ (イ)	ステップチェック「物質の融解」 目標③水溶液の中では溶けている物質が均一に散らばっていることが理解できる。 2 (1) ~ (3) P 6 2 ステップチェック「溶解度と再結晶」 目標①水溶液から溶けている物質を取り出すには、水の温度を変えたり、水を蒸発させればよいことに気付く。 P 6 6 目標②溶解度の意味が理解できる。 P 6 6 目標③溶解度との関連で、水溶液の温度を下げたり、水を蒸発させたりすると水溶液から溶けている物質を取り出せることを説明できる。 P 6 7 目標⑤それぞれの物質の溶解度と溶解度曲線から、温度の変化にともなって析出する結晶の量が計算できるとともに、その逆として、析出する結晶の量から、その物質が特定できる。 P 6 9	
4 水溶液の濃度 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 質量パーセント濃度の公式を使って計算し、水溶液の濃さを求めることができる。 	1 分野 (2) イ (イ)	ステップチェック「溶解度と再結晶」 目標④水溶液の濃さを表す方法としての濃度の計算式が理解できる。 P 6 8	
液体の正体は何だ? (2)	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物質の性質に着目して、物質を分類できることを見いださせる。 	1 分野 (2) ア (ア) イ (イ)	該当なし	
まとめ・単元末問題 (1)			該当なし	
1 光の進み方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 光による身近な現象に関心をもたせる。 光が進む道すじを調べる実験を通して、光が直進することを理解させる。 	1 分野 (1) ア (ア)	ステップチェック「光の反射・屈折」 目標①空気や水、ガラスの中での光の進み方について観察、実験し、光の性質について理解できる。 P 1 3	
2 光の反射 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 光の反射の実験を行い、光が物体の境界面で反射するとき入射角と反射角の大きさが等しくなること、鏡にある光源の像から光が直進してくるように見えることを見いださせる。 光の反射の法則を理解させ、作図により鏡にうつる像の位置や向きを説明させる。 	1 分野 (1) ア (ア)	ステップチェック「光の反射・屈折」 目標②光が鏡にあたり、はね返るときの光の進み方には、きまりがあることが理解できる。 P 1 4 ステップチェック「光の反射・屈折」 目標③光が鏡にあたり、はね返るときの光の進み方を、作図を使って調べることができる。 P 1 5	
3 光の屈折 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 光の屈折の実験を行い、光が物質の境界面で屈折すること、空気からガラスに入るとき、ガラスから空気に入るときでは入射角と屈折角の大きさの関係が変わることを見いださせる。 水から空気中に出る光は、入射角が大きくなると全反射することを理解させる。 光の屈折によって起こる現象を考察させ、日常生活と関連づけさせる。 	1 分野 (1) ア (ア)	ステップチェック「光の反射・屈折」 目標④水やガラスなどを光が通過し、空気中やほかの物質に入っていくとときの反射や屈折のきまりについて説明できる。 P 1 6 ステップチェック「光の反射・屈折」 目標⑤日常生活で観察できる反射や屈折の現象について、作図するなどして説明できる。 P 1 7, 1 8	

11 月 (12)	4 凸レンズのはたらき (3)	<ul style="list-style-type: none"> 凸レンズは光の屈折により光を一点に集めること、焦点や焦点距離などの用語を理解させる。 凸レンズによる実験を行い、物体や凸レンズの位置と像の位置および像の大きさや向きを見いださせる。 実験結果から凸レンズによってできる像には、実像、虚像があることを理解させる。 光軸に平行な光や焦点を通る光の進み方をもとに光の道すじの作図を行い、像のできる位置や大きさ、向きを求め、実像や虚像ができることを説明させる。 	1 分野 (1) ア (イ)	ステップチェック「凸レンズのはたらき」 目標①凸レンズのはたらきや安全な使い方について説明できる。 P 2 0 目標②凸レンズの大きさやふくらみの大きさによって、光の集まり方にどんな関係があるか説明できる。 P 2 1 目標③物体、凸レンズ、スクリーンを調整して、スクリーン上に像を結ばせるとき、位置関係を記録し、説明できる。 P 2 2 目標④物体と凸レンズ、スクリーン上にできる像（位置や大きさ、向き）の間には、どのようなきまりがあるか説明できる。 P 2 3, 2 4	
	1 音の伝わり方 (2) A 音を伝えるもの	<ul style="list-style-type: none"> 音さや太鼓が音を出しているようすから、音は音源が振動することによって生じていることを理解させる。 音の伝わり方に関する実験を行い、音が空気中などを伝わることや真空中では伝わらないことを理解させる。 	1 分野 (1) ア (ウ)	ステップチェック「音の性質」 目標①物体からの音の出し方を演示したり、音を出している物体の様子を説明できる。 P 2 6 目標②音の伝わり方について理解できる。 P 2 7 1 (1) (2), P 2 8 2	
	B 音の伝わる速さ	<ul style="list-style-type: none"> 音が伝わっていくようすを調べる実験などから、音には伝わっていく速さがあること、雷などの現象から光の速さは音の速さよりも非常に速いことを理解させる。 		ステップチェック「音の性質」 目標④音の速さを調べる実験をし、計算によりおおよその速さを求めることができる。 P 3 1	
	2 音の大きさや高さ (2)	<ul style="list-style-type: none"> 弦をはじく強さ、弦の長さやはる強さなどを変えて音を出す実験を行い、音の大きさや高さを変える条件を見いださせる。 オシロスコープなどを用いて、音は波として表すことができること、振幅が大きいほど音が大きく、振動数が大きいほど音が高くなることを理解させる。 	1 分野 (1) ア (ウ)	ステップチェック「音の性質」 目標②音の伝わり方について理解できる。 P 2 7 1 (3) (4) 目標③より大きな音やより高い音を出す場合などを例に、発音体（音を発生させるもの）の振動のしかたと音の様子との関係について説明できる。 P 2 9, 3 0 目標⑤日常生活において、聞こえる音の変化をとらえ、音を発生している物体の様子の変化と関連付けて説明できる。 P 3 2	
	1 力のはたらき (1)	<ul style="list-style-type: none"> 身近な現象から力がはたらいている場面を探すことで物体に力がはたらくとその物体が変形したり動きが変わったりすることを見いださせるとともに、物体を持ち上げたり支えたりするはたらきがあることを理解させる。 	1 分野 (1) イ (ア)	ステップチェック「力のはたらき」 目標①物体に力をはたらかせたときの物体の様子や様々な力の種類について、基本的なケースについて理解する。 P 3 5	

	2 いろいろな力 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 弾性力や摩擦力, 磁力や電気の力など, さまざまな力があること, 地球上にある物体には重力がはたらくことを理解させる。 物体どうしがふれあっているときにはたらく力や, 離れていてもはたらく力があることを理解させる。 	1分野 (1) イ (ア)	ステップチェック「力のはたらき」 目標①物体に力をはたらかせたときの物体の様子や様々な力の種類について, 基本的なケースについて理解する。 P 3 5 2 ステップチェック「力のはたらき」 目標⑤様々な場面で物体にはたらく力について, そのはたらきの様子をとらえ科学的に説明できる。 P 3 9	
	3 力の大きさとばねののび (2)	<ul style="list-style-type: none"> 力の大きさの単位をニュートン (N) で表し, 1 Nは約100 gの物体にはたらく重力の大きさであることを理解させる。 ばねにはたらく力とばねののびの関係を調べる実験を行い, 実験結果をグラフに表す力を身につけさせる。 実験結果のグラフから, ばねののびと力の大きさには比例関係があることを見いださせる。 	1分野 (1) イ (ア)	ステップチェック「力のはたらき」 目標③ばねののびの長さとおもりの重さの関係を表すグラフを書き, ばねののびとおもりの重さの関係を説明できる。 P 3 7 目標④物体にはたらく力の大きさを求め, 説明できる。 P 3 8	
12月 (9)	4 力の表し方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 力は, 矢印で表せること, 力の大きさを矢印の長さ, 力の向きを矢印の向きとして, 作用点から矢印を書くことを理解させる。 力には大きさと向きがあることを理解させ, 力を矢印で表す作図を身につけさせる。 	1分野 (1) イ (ア)	ステップチェック「力のはたらき」 目標②力の大きさを表す「単位」や表し方を説明できる。 P 3 6 1, 3	
	4+ 力のつり合い (1)	<ul style="list-style-type: none"> 2つの力がつり合うときのようすを調べ, 2つの力がつり合うための条件を理解させる。 机の上に物体を置いたときや, 床の上の物体に力を加えても動かないときの力のつり合いから, 垂直抗力や摩擦力がはたらいていることを理解させる。 	1分野 (5) ア (ア)	ステップチェック「力のつり合い」(理科3の冊子) 目標①2力のつり合いの実験から, 2力がつりあう条件を見出すことができる。 P 1 5	移行措置による追加箇所
	5 重さと質量 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 物体にはたらく重力の大きさは場所によって変化するが, 質量は物体そのものの量で場所によって変化しないことを知らせる。 質量の単位はgやkgで表し, 上皿てんびんで測定できること, 重力はばねばかりで測定できることを理解させる。 	1分野 (1) イ (ア)	ステップチェック「力のはたらき」 目標②力の大きさを表す「単位」や表し方を説明できる。 P 3 6 2	
	2枚の鏡でできる像 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 光が反射するとき, 反射の法則が成り立っていることや, 鏡にうつる像の位置に関する知識を確認させる。 2枚の鏡を使って文字が反転しない像をつくるための条件を見いださせる。 	1分野 (1) ア (ア)	該当なし	

12月 (9)	まとめ・単元末問題(1)			該当なし	
	1 火山の活動(2) A 火山噴出物	<ul style="list-style-type: none"> 地球は誕生して46億年たっていることを知らせ、小学校で学習した内容を思い出させる。また、大地の変化について話し合いなどをさせて、生徒の興味や関心を喚起する。 地図を見ながら、日本には110の活火山があり、いろいろな火山の活動の写真を見ながら、火山について知っていることを話し合う。これから学習する火山に関心をもたせ、全体を概観させる。 火山の噴火のようすの写真を見ながら、火山活動や火山噴出物と地下のマグマとの関係に気づかせ、興味・関心をもたせる。 	2分野 (2) ア(ア)	<p>ステップチェック「火山活動と火成岩」 目標①火山活動を地球内部のマグマと関連付けて理解できる。 P 1 1 1</p>	
	B 噴火のようすと火山の形のちがい	<ul style="list-style-type: none"> 溶岩の粘性のちがいによって、噴火のようすやできる火山の形のちがいに規則性があることを見いださせる。また、溶岩の色や形状にもちがいがあることに気づかせる。 		<p>ステップチェック「火山活動と火成岩」 目標③火山の形、活動の様子及び噴出物についてさまざまな方法で調べることができる。 P 1 1 3 (1) 目標⑤火山の形、活動の様子をマグマの性質(粘性)に着目して説明できる。説明するためのモデル実験を考案することができる。 P 1 1 5</p>	
1月 (9)	2 マグマの固まった岩石(4) A 火山灰などにふくまれる小さな粒	<ul style="list-style-type: none"> 火山灰や軽石にふくまれる鉱物の色・形などの特徴を理解させる。 鉱物には無色鉱物と有色鉱物があることを認知させる。 私たちの身のまわりにはたくさんの鉱物があり生活に役立っていることに気づかせる。 小惑星「イトカワ」の鉱物が地球にある鉱物と共通することから、地球の誕生と関連づけ、興味・関心をもたせる。 		<p>ステップチェック「火山活動と火成岩」 目標③火山の形、活動の様子及び噴出物についてさまざまな方法で調べることができる。 P 1 1 3 (2)</p>	
	B 火山岩と深成岩のつくり	<ul style="list-style-type: none"> マグマが冷えて固まった岩石を火成岩といい、冷え方によって火山岩と深成岩に分類できることを理解させる。 火山岩と深成岩のつくりを調べ、組織にちがいのあることに気づかせる。 火成岩の組織のちがいは、マグマの冷え方のちがいによることを理解させる。 身のまわりのいろいろなところで火成岩が利用されていることに気づかせる。 火成岩は、種類とふくまれている鉱物の種類や割合によって色がちがうことに気づかせる。 	2分野 (2) ア(ア)	<p>ステップチェック「火山活動と火成岩」 目標④火山岩と深成岩をスケッチし、その組織の特徴を両者を対比して表などに表すことができる。 P 1 1 4</p>	
	自然のめぐみと火山災害、地震災害(1)	<ul style="list-style-type: none"> 火山活動による恩恵について理解させる。 火山災害が起こると、どのような被害があるか理解させる。 	2分野 (2) ア(ア)	該当なし	

1 地震とは何か (2)	<ul style="list-style-type: none"> 地震の体験や具体的な記録をもとに、地震によって起こるいろいろな現象や生活とのかかわりについて調べさせる。 地震とは岩石の破壊であり、破壊の始まった場所を震源といい、その真上の地点を震央ということを理解させる。 急激な土地の変化にともなって「津波」や「液状化」、そのほかの災害が生じることに気づかせる。 地震にともなって起きる急激な隆起・沈降から、大地にはたらく大きな力があることに気づかせる。また、隆起・沈降によって、海岸段丘・河岸段丘・リアス海岸などの地形がつくられることを理解させる。 	2分野 (2)ア(イ)	<p>ステップチェック「地震の伝わり方と地球内部のはたらき」 目標②地震被害、地震による大地の変化、地震多発地域などについて調べることができる。 P 1 1 8</p>	
2 地面の揺れからわかること (1)	<ul style="list-style-type: none"> 各地の地震計の記録から、地震による揺れは、震源から四方に向けてほぼ同じ速さで広がっていくことに気づかせる。 地震計のデータをもとに、地震の揺れの伝わる速さを求める方法を身につけさせる。 資料を活用して、地震波の速さが音速より速く、光速より遅いことを理解させる。 	2分野 (2)ア(イ)	<p>ステップチェック「地震の伝わり方と地球内部のはたらき」 目標④震源からの距離とP波、S波が届くまでの時間のグラフを描くことができる。距離と到達時間はおおむね比例していることや、震源からの距離と初期微動継続時間の関係を理解できる。 P 1 2 1</p>	
3 地震による地面の揺れ方と大きさ (3) A 地震による地面の揺れ方	<ul style="list-style-type: none"> 地震計の記録や、「P波とS波を再現してみよう」から、初期微動を伝えるP波と主要動を伝えるS波の存在を理解し、観測記録からP波とS波の伝わる速さを求めさせる。 同じ地震の複数地点の地震計の記録から、震源からの距離が大きくなると、初期微動継続時間が長くなる関係を見いださせる。 		<p>ステップチェック「地震の伝わり方と地球内部のはたらき」 目標④震源からの距離とP波、S波が届くまでの時間のグラフを描くことができる。距離と到達時間はおおむね比例していることや、震源からの距離と初期微動継続時間の関係を理解できる。 P 1 2 2</p>	
2月 (12) B 地震の大きさの表し方	<ul style="list-style-type: none"> 観測地点の地震の揺れの程度を表す震度について、基本的な事柄を理解させる。 各地の震度を示した図27と、実習1を比較することで、一般に震度は、震源から遠くなると小さくなるが、地盤の性質などによるちがいが大きいことに気づかせる。 地震の規模を表す単位であるマグニチュード (M) について、基本的な事柄を理解させる。 エネルギーが約32倍になると、マグニチュードの値が1大きくなることを理解させる。 	2分野 (2)ア(イ)	<p>ステップチェック「地震の伝わり方と地球内部のはたらき」 目標③地震のゆれの大きさは、地震の規模の大きさと震源地からの距離に関係することを理解できる。地震計が記録する波形の意味を読解できる。 P 1 2 0</p>	
自然のめぐみと火山災害、地震災害 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 地震によってどのような災害が起こるか理解させる。 地震の災害を防いだり減らしたりする方法について調べ、理解させる。 	2分野 (2)ア(イ)	該当なし	

	1 地層の成り方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドキャニオンのようすを見ながら、地層について関心をもたせる。 ・地表の岩石は風化によって土や砂になっていくこと、風や流水などによる侵食によって地表が変化することを理解させる。 ・流水のはたらきによっていろいろな地形ができることを理解させる。 	2分野 (2) イ (ア)	ステップチェック「地層の重なりと過去のようす」 目標①観察や記録を見て、地層のつくりを理解できる。 地層の観察、そしてスケッチや記録できる。 P 1 2 5	
	2 地層の調査 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・地層の成り方を、構成物質の種類、粒の大小、重なり方などの特徴から理解させる。 ・地層を観察し、つくり・重なり方・特徴などを記録させる。 ・地層には、構成物質の種類、厚さ、化石の有無、粒の大きさなどの特徴があることを理解させる。 ・大地の変動によって断層やしゅう曲などの地層ができることを理解させる。 ・離れている地層の関係をj知るためには、化石をふくむ層や凝灰岩 (火山灰) の層などが手がかりになることを理解させる。 	2分野 (2) イ (ア)	ステップチェック「地震の重なりと過去のようす」 目標③流水によってできる地層の成り方を説明できる。 地層について、そのつくりと関係付けながら理解できる。 P 1 2 7, 8	
	3 堆積岩と化石 (2) A 地層をつくる岩石	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積岩には、構成物質の種類や粒の大小などのちがいがあることを理解させる。 ・堆積岩をその特徴で分類できるよう理解させる。 	2分野 (2) イ (ア)	ステップチェック「地層の重なりと過去のようす」 目標②堆積岩を観察し、火成岩との違いを理解できる。 P 1 2 6	
	B 堆積岩と化石からわかること	<ul style="list-style-type: none"> ・地層のつくり、堆積岩の種類、化石の種類 (示相化石) によって堆積した当時の環境を推定できることを理解させる。 ・古生代、中生代、新生代といろいろな生物が移り変わった資料をもとに、示準化石によって、地層が堆積した年代を推定できることを理解させる。 	2分野 (2) イ (ア)	ステップチェック「地層の重なり過去のようす」 目標④地層の様子から、地層の成り方とつくりを推測することができる。 P 1 2 9 目標⑤地層とその中の化石を手がかりとして、過去の環境や地質の年代を推測することができる。 P 1 3 0	
2月 (12)	1 火山や地震の多い場所 (2) A プレート境界	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から、世界の火山帯と震央の分布について調べ、地震発生や火山噴火の原因を、プレートやプレートの動きなど地球内部のはたらきと関連づけてとらえることができるようにする。 	2分野 (2) ア (ア) (イ)	ステップチェック「地震の伝わり方と地球内部のはたらき」 目標②地震被害、地震による大地の変化、地震多発地域などについて調べることができる。 P 1 1 9 (3)	
	B 日本付近のプレートの沈みこみ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や、日本付近の立体的な震源分布モデルから、日本列島付近の震源分布をプレートの動きによって説明できることを理解させる。 	2分野 (2) ア (ア) (イ)	該当なし	
	2 大地の変化と地形 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・断層、しゅう曲、山地の形成、陸地の衝突、付加帯の形成など、地球内部のはたらきとさまざまな地形の成り方を関連づけてとらえさせる。プレートの動きに関心をもち、プレートの動きによってどのような地形ができるか理解させる。 	2分野 (2) ア (ア)	ステップチェック「地震の伝わり方と地球内部のはたらき」 目標⑤地震の原因をプレートの動きで考えられる。地球内部の活動と大地の変化を関連づけてとらえることができる。 P 1 1 2 3	
	震源はどこか (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の地点の地震計の記録から震源を特定することに挑戦させ、情報を分析して解釈する能力を高めさせる。 ・生活に活かしていく一助となるように、防災・減災についての科学的な知識を身につけさせる。 	2分野 (2) ア (イ) イ (ア)	該当なし	

3 月 (6)	まとめ・単元末問題 (1)			該当なし	
	年間のまとめ (5)			該当なし	

中学校第1学年「英語科」

期日 (時数)	単元名(教材名)	指導内容(学習内容)	対応する「ちばのやる気」学習ガイド	備考(留意点等)	
4 月 (12)	Get ready	like/ can/want to~/ when, whereの疑問文など	◎小学校内容の復習のため、該当なし。		
	ようこそ！未来中学校へ！	①Do you~/ Can you~/ I want to be~, etc.			
	みらい中学校の仲間たち	②I'm~/ You're~/ I (don't)like~/ I (can't)~/ I want to go to~, etc			
	新しい仲間にインタビューしよう	③When is your birthday? Where are you from? What do you want to be?			
	自分のことを友だちに知ってもらおう	④上記①～③の内容			
	アルファベットの形と発音	アルファベット大文字・小文字一覧は、前見返し。①アルファベットの名前と音、母音と子音に気付かせる。音読み（おとよみ）は一定期間練習すると定着がよい。文字を見て発音したり、教師の音読みを聞いてノートに文字を書いたりする練習もできる。②数個のアルファベットの音読みを連続して、英語らしい発音の基礎を学ぶ。生徒にとって難しい発音を楽しく学び、定着を図る。			
	アルファベットを確かめよう	①アルファベットの文字と音 ABCソング			
つづり字と発音	②フォニックスの基本				
辞書を引いてみよう	辞書の引き方	調べ方を練習してから辞書引き大会で楽しく学ぶ。			
友だちを作ろう	be動詞（肯定・否定・疑問）/ Whereの疑問文	①33w/ 9s/ 3nw ②41w/ 12s/ 2nw 【導入】新しい環境で友達を作るにはどうしたらよいかを生徒に発表させて考えを共有する。その後、本文の1年B組ではどんな様子なのか聞かせる。会話内容について確認してから、話し方のよかった点や感想を発表する。 【展開】ペアで音読やスキット練習をして発表する。新学期が始まって間もないこの時期に、発表する体験や緊張感を乗り越える体験を通して、ハキハキと明るくさわやかに話したり対応できたりする態度を意識させたい。	ユニット1「be動詞を使った文」		
対話：～です。/～ではありません。 対話：～ですか。/場所をたずねる。	①I'm Ben. I'm not Ami. Oh, you are Ami.				
真央、健、ダニエル、エミリーが新しいクラスで出会う。	②Are you from the U.S.? Where are you from?				
5 月 (6)	数の言い方	数字、年齢、電話番号、値段			
	1-Bの生徒たち	一般動詞（肯定・否定・疑問）/複数形 Whenの疑問文	①32w/ 9s/ 4nw ②38w/ 10s/ 4nw 【導入】一般動詞の現在形は、今進行中のことではなく、習慣や状態を表すことを意識させる。普段すること、しないこと、好みなどをグループでなるべくたくさん日本語で話す。次にそれを英語で話す。英語で言いたかったけれど言えなかったことを辞書で調べて発表する。真央、ダニエル、エミリーの日常の様子を聞かせてから本文を読んで確認する。 【展開】ペアで音読やスキット練習をして発表する。発表に慣れさせる。ここでは登場人物になりきって、よい発音を意識させて発表させたい。今後に向けて、授業ではよい発音を心がける気持ちを育てていきたい。	ユニット2「一般動詞を使った文1」	
	対話：自分がすること〈しないこと〉 2つ以上のものを表現する	①I have an apple for a snack. I don't like apples. I eat five bananas for a snack.			
対話：～です。/～ではありません。 対話：～しますか。/時をたずねる。 真央、健、ダニエル、エミリーが教室で自分の趣味について話す。	②Do you often climb mountains? Yes, I do. When do you climb?				
			ユニット3「一般動詞を使った2」		

6 月 (6)	わたしの好きなこと ○日常生活：インドからの転校生ディーバが自己紹介をします。	◆名詞の複数形	自分が好きなことなどを積極的に話そうとする態度を意識させる。自分の好きなことを話すことができる練習を作る。I like [play]、Do you play ...?、I do not playの文の形・意味・用法に関する繰り返し練習。①聞く、②聞く・写し書き、③聞く・Q&A、④読む・書く活動を通して生徒の様子を把握し、ペア、グループ、全体での対話練習やゲームを通して英語を話しやすい雰囲気を作る。	英語1 ユニット2「一般動詞を使った文1」	
	まとめと練習2 一般動詞	一般動詞(肯定・否定・疑問)/複数形 Do you play~? I do not play			
	Listening Activity 1 何のCM? コマーシャルを聞いて、その概要や重要な情報を聞き取ることができる	一般動詞 be動詞/一般動詞	相手が習慣的にすることを積極的にたずねたり、答えたりしようとする態度や、習慣的にしていることやしていないことについて話し合う場面を作る。対話を聞いて、習慣的にしていることを聞き取ることができる。Do you ...?の文とその答え方・意味・用法に関する知識を身につけさせる。		
7 月 (11)	ホームパーティー ○日常生活：ベーカー先生宅でホームパーティーが開かれます。	◆命令文/ Let's ◆名詞の複数形 ◆How many ...?と応答	積極的に相手に指示をしたり提案したりする場面を作る。対話を聞いて、指示や提案の内容を聞き取ることができるように、ペア、グループワークでの練習や、全体での発表の機会を作るとよい。Let'sの文と命令文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。	英語1 ユニット13 Howを使った疑問文2	
	辞書の使い方2		辞書の記号や品詞の見分け方に関する知識を身につけている。		
	Presentation 1 自己紹介 教科、スポーツ、部活動、食べ物 自己紹介する、発表する	◇既習事項の総復習	聞き手が理解できるように工夫して発表したり、友達の発表を聞いて、積極的に質問したり意見を述べたりしているのを聞いて、理解させる自分の名前や好きなことについて、3文以上で書いて自己紹介する活動を入れるとよい。 ペアワークで友達の自己紹介を聞いて情報を聞き取り、互いを理解する。自己紹介の構成と、be動詞や一般動詞の使い方に関する知識を身につけているか、繰り返し練習させる。 今後に向けて、授業ではよい発音を心がける気持ちを育てていきたい。		
9 月 (6)	Junior Safty Patrol 対話①：他の人がすること [しないこと] 対話②：他の人がすることをたずねる アメリカでは生徒たち自身で登校中の安全を指導するJunior Safty Patrolがあることを紹介するダニエル。そして、真央と健はダニエルの家遊びに行く。	3人称・単数・現在(肯定・否定・疑問) ① My grandmother makes my lunch for me. She cooks very well. But she doesn't make breakfast. ② Does your grandfather make breakfast? Yes, he does.	①47w/ 11s/ 5nw ②50w/ 11s/ 7nw 【導入】①「ジュニアセーフティーパトロール」って何だろう?と質問し予想させる。すでに知っている生徒は聞き手になる。ブレインストーミングで生徒からの発言を黒板に記入する。本文の音声を聞いて、聞き取れた概要を発表する。次に本文を読み、日本との違いをノートにまとめる。 【展開】音声練習、感情をこめてスキット練習をする。②は3人で行えて楽しい。3単現のs(-es)は理屈で覚えるよりも口について出るぐらいまで文を言い、書く練習をする。本文の内容が豊富になってきたので、本文を活用して生徒同士で疑問文を作ってQ&Aを行う。	ユニット4「三人称単数」 ユニット5「doesを使った疑問文」	
	季節・月の名前	春夏秋冬、January~December	授業開始前にその日の日付をノートに書くことを習慣化し、長期間繰り返ししっかりと定着させる。		
10 月 (8)	The Way to School 対話①：人について「～を、に」 対話②：理由についてのQ&A	him, her / Whyの疑問文、Because~ ① This is my friend Paul. I know him. Oh, Sue! I like her.	①57w/ 12s/ 10nw ②57w/ 11s/ 6nw 【導入】p69の写真をみる。左の男の子は11歳、右は妹と伝えて、どんな物語なのか予想させてから本文を読ませる。理解して情報をノートにメモし、ペアでメモを確認し合う。一生懸命学校		

	エミリーが映画『世界の果ての通学路』について調べているところに健がやって来る。2人は映画に出ているケニアの少年ジャクソンについて話す。	② Why do you like Sue? Because she is always kind to me.	に通っている生徒の話だと伝える。 【展開】片道15kmを2時間通っていること以外にも、インターネットで情報をさがし、教科書に出ていることや、ほかの情報についてクイズ形式でQ&Aをする。映画ではジャクソンのほかに3つの話もあるので、情報を英語で紹介して深める。	
	道案内をしよう① (駅ビル)	Where is ~? / Turn right, and ~, など	2の練習を繰り返し行い、3ではペアを何回か替えて即興でコミュニケーションできるようにする。最後に発表を行う。	
	店内放送を聞こう	放送を聞いて、商品の特長を聞き取る。	聞き取りづらい文に絞って何度も聞かせてディクテーションし、	
	順番・日付の言い方	序数	表を見ず1st~31stをペアで交互に行って競争する。	
11月(13)	Research on Australia	There is [are]~, / How の疑問文	①59w/ 15s/ 7nw ②58w/ 11s/ 8nw	中2 ユニット3「there is / are を使った文」
	対話①: ~がいる[ある]	① Oh, there is a sushi restaurant over there.	【導入】p79の文字を隠して写真(エアーズロック)を見せて、どの国か当てさせる。その後、オーストラリアについて知っていることを発表させる。本文を読んで、要点を英語でノートにまとめる。その後、音読練習を繰り返す。 【展開】ノートにまとめた要点を参考にし、メモを見ながら本文の内容を英語で話し、簡単なリテリングをする。	
	対話②: 手段・方法についてたずねる	② How can we go there?		
	エミリーは健にオーストラリアの世界遺産や動物について話す。そこに真央がやって来て、2人でオーストラリアのクリスマスについて話す。			
	話の組み立てを考えよう	スピーチの構成	生徒と一緒にスピーチしやすいトピックを出し合い、(例: my favorite animeなど)、帯活動で断続的に行う。	
	英語でやりとりしよう②	Is this [that / he / she] ~? / Does he [she] ~? など	例を参考に、手を加えながら1分間チャットを行う。	
	疑問詞のまとめ	5W1Hを使った疑問文	例を参考に、1分間チャットを行う。	ユニット10「whatを使った疑問文(1)」 ユニット11「whatを使った祇園分(2)」 ユニット12「howを使った疑問文(1)」 ユニット13「howを使った疑問文(2)」 ユニット14「whoを使った疑問文」 ユニット15「whenを使った疑問文」 ユニット16「whereを使った疑問文」 ユニット17「whoseを使った疑問文」 ~ユニット18「whichを使った疑問文」
	この人を知っていますか (他人紹介) ①モデルを確認する。 ②構想を練り、スピーチ原稿を書く。 ③協同学習で助言。 ④発表、評価、振り返り	(これまでの復習)	①モデル文を聞いて概要を把握してから、読んで正確に理解する。そして、構成を確認する。 ②スピーチ作りのマッピングの前に、その人について、ブレインストーミングでできるだけ多くの情報をノートに書き出す。そして、効果的に聞き手に伝わるように、理由の順番を決めて基本の流れを作り、ペアで即興スピーチをする。互いにアドバイスし、原稿を書く。 ③机上に原稿を広げ、自由に友だちのものを読んで参考にしたり、アドバイスしたりする。ペアやグループで即興のスピーチを行い、その後修正して発表する。	
	インタビューを聞こう	ドラえもんへのインタビューを聞き取る	聞き取りづらい文をディクテーションし、再度聞かせて、音声と一緒に読ませる練習を行うと聞き取りやすくなる。	

12月(9)	<p>The Year-End Events</p> <p>①対話：今、～しています。 [していません。]</p> <p>②対話：今、(何を)～していますか。</p> <p>大掃除をしているエミリーの家族。父は「手伝ってほしい。」とエミリーと弟に声をかけるが、2人も手が離せない。ダニエルの家では、母がお節料理の栗きんとんを作っている。</p>	<p>現在進行形(肯定・否定・疑問)</p> <p>① I'm studying now. I'm not studying now.</p> <p>② Are you really studying, Ben? What are you doing?</p>	<p>①60w/ 17s/ 7nw ②56w/ 16s/ 8nw</p> <p>【導入】現在進行形の形と意味は理解しても、使用場面が分かりづらい。普段はどんな時や場面で使うのかを考えて発表する。そして、本文を聞いて内容と場面を確認する。主に相手が見えない時であることを理解し、読み進める。</p> <p>【展開】本文を参考に、現在進行形を使ったスキットを3～5人のグループでつくる。場面を設定、人間関係を決め、どんなことをしているのかなどのストーリーを決める。次に各自のセリフを書いて、完成後練習し、発表する。現在進行形の形と意味だけにとらわれないように、自然に使える場面を意識して理解を深める。</p>	<p>ユニット7「今している動作を表す文」</p>
	<p>絵や写真を英語で表現しよう</p>	<p>インフォメーションギャップ</p>	<p>3のあと、1の絵も同様に1, 2ヶ所を変更し、ノートに書いて(例：バナナ→リンゴ)タスク活動をする。</p>	
1月(9)	<p>A Trip to Finland</p> <p>①対話：過去にしたことを言う (規則動詞)</p> <p>②対話：過去にしたことを言う (不規則動詞)</p> <p>③対話：過去にしたことをたずねる しなかったことをたずねる</p> <p>冬休みに旅行でフィンランドに行った美希が、家に遊びに来たダニエルと健にオーロラ、サウナ、サルミアッキ、極夜などについて話している。</p>	<p>一般動詞の過去形(肯定・疑問・否定)</p> <p>① I stayed home, watched TV all day. No, I worked a little. I cleaned my room, too.</p> <p>② I had a good time yesterday. I ate an ice cream, and I won another one.</p> <p>③ Did you eat tow ice creams? Yes, I did. So I didn't eat dessert last night.</p>	<p>①62w/ 14s/ 8nw ②63w/ 14s/ 13nw ③70w/14s/6nw</p> <p>【導入】p103の写真を見せ、各班でA3版の用紙に太字のペンで、フィンランドについて知っていることをできるだけたくさん書かせる。本文の音声を聞き、各自で要点をメモする。聞き取れたことをペアで交流し、本文を読んで確認する。</p> <p>【展開】日本語訳を用意し、それを見て英語を言えるように練習する。そうすることで単語の定着が高まり、語順を意識して英文を作ることができる。P109の写真とメモを見ながら、即興でそれらの内容を英語で説明してみる。</p>	<p>ユニット19「過去を表す文」</p>
	<p>文の内容を整理し、表現しよう</p>	<p>PROGRAM 9の内容を図表で整理する。</p>	<p>ノートに整理・要約してリテリングし、友だちと見せ合う。</p>	
2月(9)	<p>Grandma Baba's Warming Ideas!</p> <p>①対話：過去の状態について話す</p> <p>②対話：過去の状態についてたずねる 過去の状態を否定する</p> <p>③対話：過去のある時にしていたこと しなかったことをたずねる</p> <p>ババばあちゃんと寒がりの動物たちがそりに乗って遊び、ポカポカに温まる物語。</p>	<p>be動詞の過去形 / 過去進行形 (肯定・疑問・否定)</p> <p>① I was a student at this time. You were very cute.</p> <p>② Were you tired? I wasn't so busy today.</p> <p>③ Were you studying? I was reading a textbook.</p>	<p>①87w/ 18s/ 9nw ②81w/ 26s/ 14nw ③80w/14s/15nw</p> <p>【導入】1年で初めての物語文。プリントの表に内容把握の質問を5問程度、裏には日本語訳を印刷したものを用意し、5分程度で読み取らせ、内容を確認する。</p> <p>【展開】特に発音に気を付けるべき箇所に下線を引き、音読練習を行う。その後、日本語訳を見ながら英文を言えるようにしていく。1年生のまとめとして、ピクチャーチャートを使用し、感情をこめてグループで紙芝居発表を行う。ビデオに撮って鑑賞し、自分たちの英語を聞いて振</p>	<p>中2 ユニット1「過去を表す文」</p> <p>中2 ユニット2「過去進行形」</p>
	<p>英語でやりとりしよう③</p>	<p>Are [Were] you (watching)～? Did you ～? など</p>	<p>テーマや状況を設定し、1分間チャットを行う。</p>	

3 月 (5)	私が選んだ1枚	「これまでの復習」	<p>①モデル文を聞いて概要を把握してから、読んで正確に理解する。そして、構成を確認する。</p> <p>②スピーチ作りのマッピングの前に、その人について、ブレインストーミングでできるだけ多くの情報をノートに書き出す。そして、効果的に聞き手に伝わるように、理由の順番を決めて基本の流れを作り、ペアで即興スピーチをする。互いにアドバイスし、原稿を書く。</p> <p>③机上に原稿を広げ、自由に友だちのものを読んで参考にしたリ、アドバイスしたりする。ペアやグループで即興のスピーチを行い、その後修正して発表する。</p>	
	Picture description ①モデルを確認する。 ②構想を練り、スピーチ原稿を書く。 ③協働学習で助言。 ④発表、評価、振り返り。			
	絵はがきを書こう	手紙の書き方	友だち意外に、先生、ALTにお礼の手紙を書く。	